

小規模企業景気動向調査

[2020年8月期調査]

～3か月連続で全業種が改善も、回復度合に差が見られる小規模企業景況～

2020年9月28日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2020年8月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…3か月連続で全業種が改善も、回復度合に差が見られる小規模企業景況…◇

8月期の小規模企業の業況DIは、全業種で3か月連続の改善となった。サービス業以外は、緊急事態宣言前の3月期を上回る水準に回復した。夏の行楽シーズンを迎え、GoToTravelキャンペーンや各種景気刺激策等の効果もあり、全体的に経済活動が回復基調にある。しかし、夏祭りやイベントの中止、帰省の自粛等により、例年の水準には程遠く、依然として厳しい状況が続いている。また、業種や事業者によって、回復度合に差が生じていることを懸念する声が目立った。

<製造業> ◇…回復傾向が続くも、先行き不安な製造業…◇

製造業は、全DIが3か月連続、かつ、前月に比べ5pt超の改善となった。機械・金属関連は大手企業からの発注減等による生産調整が依然として続いているものの、一部では復調傾向にあり、全般的に4・5月期と比べると落ち着きを取り戻した感がある。食料品関連は、巣ごもりによる消費拡大で好調なスーパー向けの受注増により、売上は拡大傾向にあるが、原材料の原価高騰や販売先の飲食店の需要減退の影響を受けている。製造業全体としては回復傾向であるが、感染拡大や親会社の状況に大きく左右されるため、先行き不安な状況である。

<建設業> ◇…回復基調が加速も、民間需要の弱さ等懸念材料も多い建設業…◇

建設業は、3か月連続で全DIが5pt以上の改善となった。休止となっていた工事が再開していること、公共工事の発注が順調であること、災害復旧工事が継続していること等の要因で、売り上げが回復しているとの声があった。しかし、民間の住宅・設備関連では、先行きを不安視する消費者心理から、工事の延期・中止も多く、資金繰りを圧迫している。全般的には回復基調も、業種や事業者ごとに回復度合には大きく差が出ているとの声があった。

<小売業> ◇…全体的に回復基調も、業種・事業者ごとに明暗が分かれた小売業…◇

小売業は、全DIが改善し、改善幅は売上額DI以外は5pt超となった。耐久消費財関連は、商品券や給付金等の景気刺激策の効果もあり、ウイルス対策のための空気清浄機や、猛暑の影響でエアコン等の季節家電の売上が好調であった。食料品関連は、一部の事業者では、巣ごもり需要や、お盆休みを家で過ごす動きなどにより、好調であるとのコメントがあった。一方、飲食店との取引の多い事業者は、依然として厳しい状況が続いている。衣料品関連は、外出を控える動きから、購買意欲が落ちており売上が低迷している。

<サービス業> ◇…3か月連続の改善も、本格的な回復には程遠いサービス業…◇

サービス業は、全DIで改善したものの、回復のペースは鈍化しており、4業種の中で唯一3月期の水準に達していない。理美容業は、客足が少しずつ戻ってきているとのコメントがあり、業況が好転傾向にある。宿泊業は夏の行楽シーズンを迎え、GoToTravelキャンペーン等の効果もあり、若干回復したものの、低い稼働率は続いている。また、洗濯業は、宿泊業からの受注減や、外出控えや在宅勤務の増加の流れを受け、厳しい状況が続いている。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比
売上額	▲ 67.0	▲ 61.8	5.2	▲ 75.6	▲ 68.8	6.8	▲ 60.8	▲ 53.1	7.7
採算	▲ 64.1	▲ 59.6	4.5	▲ 73.6	▲ 67.9	5.7	▲ 57.1	▲ 51.1	6.0
資金繰り	▲ 63.1	▲ 58.3	4.8	▲ 69.4	▲ 63.8	5.6	▲ 59.1	▲ 53.5	5.6
業況	▲ 68.3	▲ 63.1	5.2	▲ 78.2	▲ 71.1	7.1	▲ 61.0	▲ 54.6	6.4

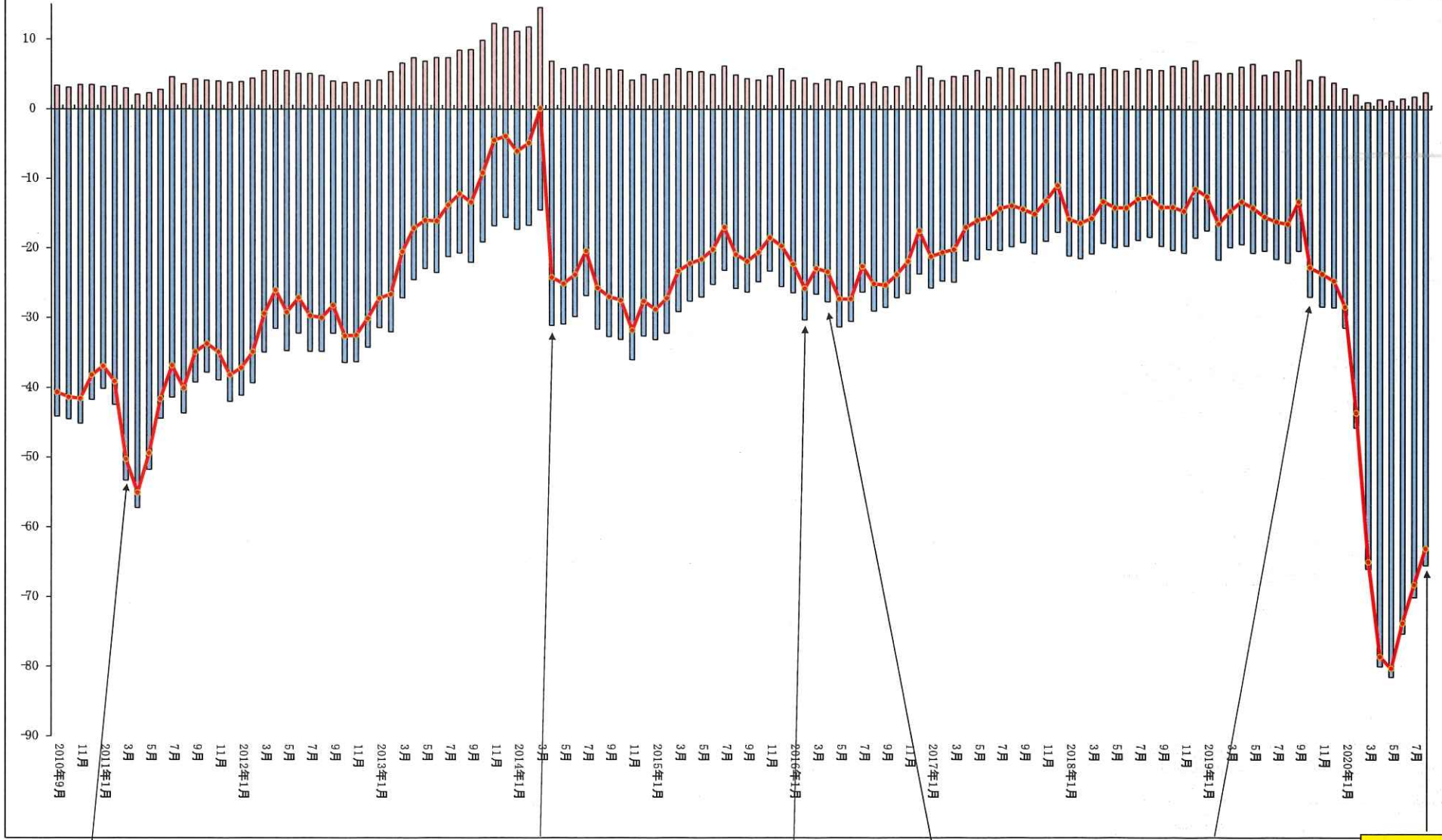
業種	小売業			サービス業		
	7月	8月	前月比	7月	8月	前月比
売上額	▲ 59.9	▲ 55.4	4.5	▲ 71.8	▲ 70.0	1.8
採算	▲ 59.4	▲ 54.3	5.1	▲ 66.5	▲ 65.1	1.4
資金繰り	▲ 59.5	▲ 52.2	7.3	▲ 64.4	▲ 63.4	1.0
業況	▲ 62.1	▲ 57.0	5.1	▲ 71.8	▲ 69.7	2.1

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■ 悪化
■ 好転
— DI



11年3月
東日本大震災
(-50.3)

14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利導入
(-25.8)

16年4月
熊本地震(-23.4)

19年10月
消費税率10%引上げ
(-22.8)

20年8月
(-63.1)

小規模企業景気動向調査(8月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

・事業者は各種支援策を活用して新型コロナウイルスの感染対策をしたうえで、事業活動を行っており徐々に人が戻り始めている。

(新温泉町商工会)

・観光が基幹産業の当地では8月にゴーツーtravelを利用した入込客増加を期待したが新型コロナ感染者が当地でも発生し観光関連業者は冷や水を浴びせられた感がある。そういう中でも今後ウィズコロナを見据えターゲットの変更、非対面型への取り組みなどに各種補助金を活用し積極的に動く事業者もあり今後に期待が持てる。

(屋久島町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・新型コロナの感染拡大を防止の観点から、事前に決定していたとおり鹿角地域の祭りやイベントは全て中止とな観光客が訪れず、観光宿泊飲食関連の事業者は大きな打撃を受けた。また、当地域ではお盆期間の帰省に合わせて成人式を開催していたが、帰省を見合わせたと予想される。事業者の事業継続と地域経済の早期回復を目的に、プレミアム付商品券の発行を行い、事業の下支えを行った。県内の宿泊者数が増加に転じたことも影響し、より人が動かなくなったため、事業者にとっては依然として厳しい経営を迫られている状況である。

(かつの商工会)

・飲食店・旅館・旅行業の新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい。国・県・市による施策が多数用意されているものの、効果は限定的。また、様々なクーポン、商品券の乱発により消費者・事業者とも混乱が見られ、お徳感はあるものの買い控えが発生するのではないかと懸念している。

(尾花沢市商工会)

・当地域は宿泊業が半数を占めており、首都圏などで新型コロナウイルス感染が収束しない状況下で合宿客や帰省客が大幅に減少したことにより、春よりも経済的に厳しい状況になっている。グレードの高い宿泊施設、外作業の建設業など一部の事業者は売上が増加しているが、大多数の事業者は売上が大きく減少しており、宿泊業などでは春先よりも厳しさが増している。

(妙高高原商工会)

・夏の行楽シーズンを迎え、gotoキャンペーン等による地域への往来が増加し、観光産業等は回復傾向にある。例年の水準には程遠いが、春先の緊急事態宣言下に比べると着実に上を向いている。反面、各地域における感染拡大リスクも高まっている。当地域では今まで感染者が出ていなかったが、所轄の保健所管内で感染者発生が公表された。詳細情報は公表されないため、様々な情報が入り乱れ当地は混乱、近く予定していたイベント等の中止・自粛が相次いだ。以降同地域での感染拡大には至っていないため落ち着きを取り戻しつつあるが、経済回復を目指しつつも感染状況に大きく左右される状況は続いている。

(四万十町商工会)

・全般的に厳しい状況下にあるが業種別、事業者別の格差が大きくなってきているように感じる。現況を機会ととらえ積極的に多角化を行う事業者も増えているため今後の回復に期待。

(玖珠町商工会)

2. 製造業

・製麺製造業については、外出自粛の影響で店内飲食向けの卸売は低調なもの、スーパー向けの卸売については発注数の増加があるなど売上高は微増している。

(佐土原町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・食料品製造業についてスーパーからの受注増など巣ごもりによる消費拡大の影響がみられ、売上が拡大傾向、その反面、機械金属製造業についてはコロナによる需要減少により売上の減少が続いている

(本吉唐桑商工会)

・金属加工関連の製造業は元請けからの受注量が減っており依然として厳しい状況。今後さらに厳しい見通しの企業も多い。食品製造業は、飲食店からの注文が少なく受注が減っている一方、ECサイトでの個人向け販売が好調のため、日持ちをする製品の製造開発を進めネット販売強化を進めている。日本酒製造業は飲食店からの受注が少なく苦戦。新酒PRなども試飲会ができないためこれまで以上に新規取り込みが難しくなっている。各種展示会や販売会が中止の中、イェナカ需要の高まりやオンラインサービスなどをうまく活用できるかが大きなカギとなっている模様。

(佐久市望月商工会)

・食料品製造の業者は、8月になり来店者は戻りつつあるが、従来の売上高の回復までは至っていない。繊維工業の製造業者においては8月期においてもコロナ感染防止のための医療用防護服を製造しており、数字的にも昨年同月比で良い結果となった。先月に引き続き防護服の製造で売上がカバーされている。機械金属の関連業者は8月は7月から比較すると売上高は3割減少している。一部の自動車メーカーの生産が復調する見込みで10月からの受注の増加が見込まれる。

(柳川市商工会)

・今年度のお盆時期の帰省は、7月後半の4連休への前倒し・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う自粛の流れがあったことから、8月14日以降の土産用食料品の売上が昨年度同時期と比較して減少している。

(対馬市商工会)

・食料品製造業の事業者のうち観光客をターゲットとした土産物品などの製造販売において、感染症の影響のため前年同月比で観光客が減少しており、これに伴う売り上げの減少がみられる。

(あまみ商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

・公共工事は若干の見込みはあるものの、見通しは依然として厳しい。鳥海ダム関連含め下請け工事は9月から取付工事へ向け本格的な動きもあり、今後も上向きの見込み。一般工事の受注は安定。新たに設備を導入することで生産性向上及び新規受注獲得が期待できる。

(由利本荘市商工会)

・工事の中断・延期となっていたものが、ここきて回復傾向になってきた。受注が集中し始めたことで外注先の確保が厳しくなっている。人材の確保については、飲食・サービス業からの転職による採用がみられる。

(古河市商工会)

・土木関連では、昨年の台風災害復旧工事関係がまだまだ多く、今年度の台風シーズン前の工事完了を目指しているため、業者や人手が足りない状態。また、石工工業者は来年の善光寺御開帳に合わせた公共工事の受注が遠方からもあり今年度中は受注量が確保されているとのこと。一方、建築関連は企業間格差が大きい。大規模な受注を受けている中堅企業もある中、これまで地元企業に下請けに出していた仕事も他県業者に出す場合も多く、小規模零細事業所は苦戦を強いられている事業所も多い。

(佐久市望月商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・建設業については、会社の形態、受注の獲得の仕方、コロナウイルスの影響を直に受けている社、影響を受けずに安定した受注先を持っている社で売上額等の差が激しい。アフターコロナも踏まえ、今後は安定した受注先を持ち、コロナウイルスの影響を直に受けていない社が地元業界の経済を牽引していく形にしていければ、景気改善の余地が見えてくるのではないかと考えている。

(鹿島商工会)

・地元大手企業の生産量減少が多くみられ、下請けの中小規模事業者は大きな影響を受けている。

(神栖市商工会)

・一般住宅建設・リフォーム事業者では、工事の延期が発生したため、売上入金も遅れたことで資金繰りが非常に苦しくなっている。工事の再開が始まっているため、今後は改善の傾向が見られるのではと期待している事業者もある。

(養老町商工会)

・リフォーム工事業では、新型コロナウイルスに起因する先行き不安という消費マインドを受けて、工事の延期・先延ばしが数多く出ており、一般消費者からの受注獲得が困難な状況が続いている。

(岡山北商工会)

・住宅関連の建設業では、会場見学会等の営業が積極的に出来ないが、一時期よりは受注が増えてきている。ただ、以前ほど先行きが見えない不安はあるようである。

(熊本市城南商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

・家電製品の小売業者は巣ごもり需要で薄型TVや季節商品(エアコン)の販売が8月は好調になっている。

(大磯町商工会)

・猛暑・プレミアム商品券・県三密支援金などにより、電化製品を中心に消費が伸びた。一方、プレミアム商品券の換金にタイムラグがあり、一時的な資金繰りに苦慮している。

(小出商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・衣料品小売…8月は年金月で高齢者の来客が比較的增加したが、売上は年々減少しており学生服関連の販売がなければ厳しい状況。今月は遠出や外出の機会が少なくなったことで、服を新調する必要性が減った。例年、お盆に帰省するお客様が来ないことも大きく影響。食料品小売…コロナウイルスの影響で人が来店客数が減少しているほか、連日の暑さで外出を控える高齢顧客が多い。耐久消費財…新車よりも中古車の販売台数が増加。猛暑でエアコン需要が急速に高まっており、対応が追い付かない状況。同業他社も同様な状況。給付金からプレミアム商品券の流れで売れる商品も品質・機能が優れたモデルが捌ける傾向。客単価も高くなっている。

(由利本荘市商工会)

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、業績が悪化している。特に、衣料品小売業は外出自粛の影響により来店客数が減少し、売上が大きく落ち込んでいる。食料品小売業については、スーパーなどといった家庭で日常的に消費される食料品を取り扱う事業者は影響が小さいものの、高級食材や和菓子など、特別な日や贈答用、イベント用で消費される食料品を取扱事業者は大きく売上が落ち込んでいる。

(本巢市商工会)

・新型コロナウイルスの影響によって業績の悪化が続いている小売業であるが、外出をする消費者が徐々に増えてきているものの衣料品店は厳しい状況にある。食料品については、天候による影響により仕入価格が

(みえ熊野古道商工会)

・衣料品関連は外出自粛による影響で購買意欲が伸び悩んでいるが、耐久消費財は大きな変化は見られない。ネット販売等は堅調である。食料品小売は飲食業を中心に依然厳しい状況が続いており、テイクアウト等の工夫に取り組む事業者が増加傾向にある。

(瀬田商工会)

・衣料品関連の小売業は、ファッションなど不要不急の嗜好品に対する家計支出はかなり引き締められている。生活必需品も幅広く扱う店舗と業績の差が大きい。食料品関連の小売業は、コロナウイルスがもたらす巣ごもり需要によって生鮮食品や冷蔵・冷凍菓子の動きは活発。農産物は軒並み仕入が上昇。耐久消費財関連の小売業は、コロナ禍の影響の中、空調機・空気清浄機等の家電製品は販売好調、全般的には消費者の購買意欲は低調で推移している。

(中部商工会産業支援センター)

・定額給付金や巣ごもり需要など、小売業関係の動きは堅調。しかし、個店間での好不調は見受けられる。中で二輪車の販売が好調との話を聞いた。県下で見ている情報であるが、大都市圏では個人のコロナ対策により、公共交通機関からの乗り換え需要が多くなっているのに対し、高知県は行楽シーズン真っただ中で気候的に長く乗れるということが大きな要因として考えられる。新車の製造は遅れているため、中古市場が活況になっているということであった。地域共通クーポンの発行など控え追い風要因はあるものの、感染者が出ていない地域で新たな感染者が出た場合の地域の混乱など、業績を左右する不安要因は務ぐいきれない状況である。

(四万十町商工会)

・食料品小売業については、観光客をターゲットとした事業者で売上の減少がみられる。また、災害や異常気象による野菜等が品薄で値上がりしており、売上の減少につながっている。また、耐久消費財については、家電を中心に、定額給付金等を活用した購入が若干増えている。

(あまみ商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

・理美容関係の事業者は、新型コロナウイルス感染症の影響で鈍っている客足が、少しずつ戻ってきているため、業況がやや好転している。

(呉広域商工会)

・旅館・ホテル等は、gotoトラベル及び夏休みのせいで若干景気上昇。

(川上商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

・県をまたぐ移動が解除となったものの従来通りの人出に回復していない。感染に対する恐怖から、帰省客の来店を嫌がり、通常のお盆休み以上に長期間の休業をした飲食店があった。国のGOTOキャンペーンに対するチラシ等を待参して説明しても関心が薄い感じがする。理美容業においても、顧客の来店サイクルが長くなって来たと感じている店主も多い。

(外ヶ浜町商工会)

・洗濯業は在宅勤務が増えたことの影響か売上が減少。理美容業は消毒の経費等の増加が見受けられる。

(柏市沼南商工会)

・宿泊業では、コロナ禍で大学や高校等の合宿は9割がキャンセルとなったため、合宿を受け入れている宿泊施設は大きな打撃を受けている。国のGOTOトラベルや連動した誘客促進事業が行われたものの恩恵を受けたのは比較的グレードの高い一部の宿泊施設に限られた。首都圏や関西圏での新型コロナウイルス感染拡大が続き、お盆休みに帰省や帰省途中に宿泊する客が大幅に減少したため、小規模宿泊施設の多くは売上が大幅に減少し、売上がまったくないところも散見される。クリーニング業は主要顧客である宿泊施設からの発注減により売上減少が続いていて厳しい。理美容業は、コロナ禍以前よりもお客様の利用間隔が延びている分売上が減少している。

(妙高高原商工会)

・クリーニング業界は新型コロナウイルス感染症の影響でおうち時間が増加したことによる自宅で洗濯を行う傾向となり売上が減少傾向となっている。

(日野町商工会)

・夏の行楽シーズンを迎え、キャンプ場や旅館等も売り上げを回復している。当地域においては、近隣を含め新型コロナウイルスの感染者が出ていないこともあり、サービス業全般に見ても落ち着きを見せ始めていた。しかし、8月下旬に所轄する保健所管内で感染者の発生があり、一時的に緊迫感が広がった。しかし以降の感染拡大は見られないことから、平静を取り戻しつつある。gotoキャンペーンの地域共通クーポン等が発行されれば、地域内の往来も活発化することが予想され、各業種感染予防対策へのより一層の備えが必要になると推察される。

(四万十町商工会)

・「GoToトラベルキャンペーン」の宿泊業者登録が開始されたが、煩雑で分かりにくい制度・手続きに事業者は大変混乱しており、当商工会にも相談が寄せられ対応に苦慮している。対馬市におけるキャンペーンの利用者は大手チェーンのホテルを利用する機会が多く、他のホテル・旅館はまだキャンペーンの恩恵があまり行き届いていない。個人向けクリーニング・美容室は対馬市でのコロナ感染拡大後、客足が途絶え始めた。9月以降の影響が懸念される。

(対馬市商工会)